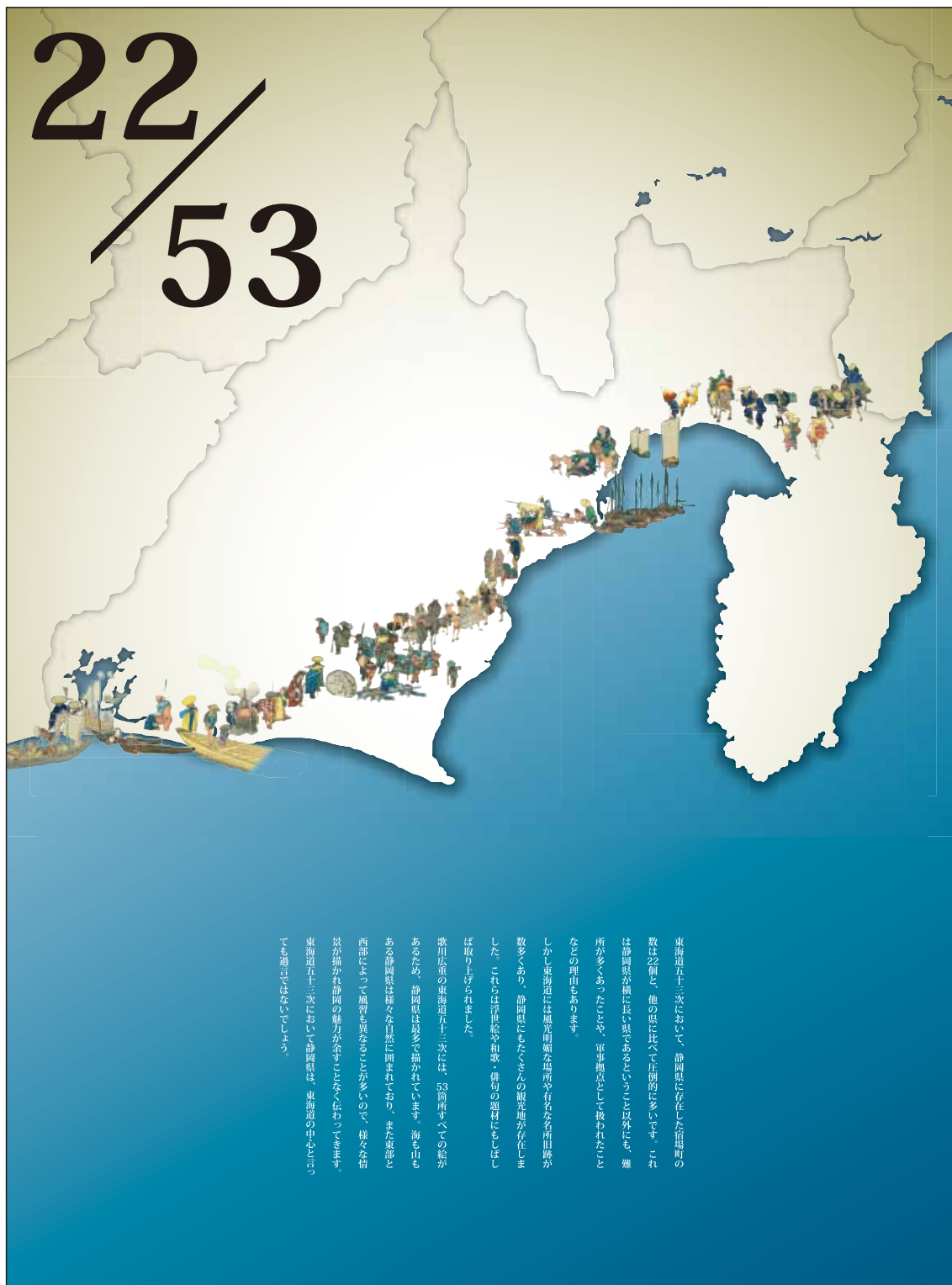


# ■ 準グランプリ

## 「東海道22/53次」

大塚源理（専門学校 浜松デザインカレッジ）



東海道五十三次において、静岡県に存在した宿場町の数は22個と、他の県に比べて圧倒的に多いです。これは静岡県が横に長い県であるということ以外にも、難所が多くあったことや、軍事拠点として扱われたことなどの理由もあります。

しかし東海道には風景明媚な場所や有名な名所旧跡が数多くあり、静岡県にもたくさん観光地が存在しました。これらは浮世絵や和歌・俳句の題材にもしばしば取り上げられました。

歌川広重の東海道五十三次には、53箇所すべての絵があるため、静岡県は最多で描かれています。海も山もある静岡県は様々な自然に囲まれており、また東部と西部によって風習も異なることが多く、様々な情景が描かれ静岡の魅力が余すことなく伝わってきます。

東海道五十三次において静岡県は、東海道の中心と言っても過言ではないでしょう。

### 【作品コンセプト】

東海道五十三次における静岡県の立場を表現しました。あまり知られていない静岡の魅力やすごい所をたくさんの人に知ってもらいたいと思い応募しました。